

令和7年度 三重県 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力の育成
～言語活動の充実のためのICT活用/指導と評価の一体化の推進～

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンス含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①授業参観や研修会の協議の様子等から言語活動を大切にして授業を行っている様子が見られる。

(参考「授業中、50%以上の時間、児童が英語による言語活動を行っている割合」
R5:95.9%)

②研究推進校でのICT活用の効果検証研究で、「英語の授業におけるICT機器の活用（発話や発音を録音・録画）」が英語力及び情意面の双方で効果的であるとの結果が得られた。

① R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「英語の勉強が好きな児童の割合」について課題が見られる。

(R5:68.6%⇒R6:68.3%)

②「新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合」は引き続き改善の余地がある。

(R5:17.4%⇒R6:13.9%)

2. 要因分析

①児童のコミュニケーション力を高める授業づくりにおいて、学校訪問での言語活動に関する助言や、公開授業を伴う研修、言語活動を中心とした授業づくりに関する研修を実施したことで、言語活動を中心とした授業実践が増加したと考えられる。

②研究推進校や大学教授等と定期的に効果検証会を実施し、研究の進捗状況を把握するとともに、課題を明確にし、その都度軌道修正を行いながら研究を進めたことが成果を得られた要因であると考えられる。

①指導と評価の一体化を図るための具体例やR5も課題であった「CAN-DOリスト」の実質的な活用の重要性が十分に浸透していないことが要因として考えられる。

②英語能力向上の重要性の浸透が不十分であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②児童の英語による言語活動の更なる充実の推進

- 言語活動を通してコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成するため、引き続き言語活動の定義を明確化し、必要性和その具体について発信するとともに、児童の言語活動を促す教師の英語による授業の進め方について学ぶ研修等も実施することで、児童の言語活動の充実につなげる。
- R6の研究推進校での成果を広く普及するとともに、新たな研究推進校等でも効果的な活用について取組を進めていく。また、言語活動を充実させ児童の英語での発信力向上を図ることを目的とするICTを活用した授業づくりについての研修を実施する。

①児童の英語の学習意欲向上の推進

指導と評価の一体化により、児童が学んだことを実感し適切に評価されることで英語の学習意欲向上につながると考えるため、学校訪問や研修で効果的な実践例等について指導・助言を行う。

②新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を増加させるための取組

CEFR B2相当以上に加え、CEFR B1レベルにおいても、新規採用者試験において加点制度を導入。また、大学説明会や教職ガイダンス等を利用して英語加点を説明し英語能力向上の重要性を周知し、英語免許状所有者、英語資格取得者の増加を図っていく。

(参考URL：生徒の英語力向上推進事業概要)

<https://drive.google.com/file/d/1YnwOXCSOemqjPG4pKpN9z8f5FHs1BRV/view?usp=sharing>

令和7年度 三重県 英語教育改善プラン

目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成

～言語活動の充実のためのICT活用/教師が生徒の理解に応じた英語で行う授業の推進～

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 51.6% ⇒ R7: 54 %)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語力
(R5:47.7%⇒R6:51.6%)
- ②授業中、50%以上の時間、生徒が英語による言語活動を行っている割合
【参考：県独自調査】
(R5:64.9%⇒R6:77.0%)
- ③授業中、教師が発話の50%以上を英語で行っている割合
【参考：県独自調査】
(R5:54.3%⇒R6:71.6%)

未だ改善が必要な点

- ①全国学力・学習状況調査「即興で伝え合う活動」
(R5:65.6%⇒R6:68.8%)
- ②デジタル教科書を活用していない
(参考:R6:2.7%)
- ③遠隔地の生徒等と英語で話す交流を行っていない
(R5:88.5%⇒R6:86.5%)

2. 要因分析

- ①②オンライン国際交流実証事業において、モデル3校での取組を実施したことで、授業を実際のコミュニケーションの場面として生徒の英語による言語活動を充実させることができたと考えられる。
- ③「言語活動を中心とした各領域の指導方法」にかかる研修会を実施したことで、生徒の理解に応じた英語で授業を行うことへの意識が高まり、授業改善が進んだと考えられる。
- ④以上のような事例を英語通信や英語教育担当指導主事会で県内に広めることで、授業改善が進み、生徒の意欲の向上につながったと考えられる。

- ①即興で伝えることは難易度が高いので、全国的な傾向同様、ポイントが下がると考えられる。
- ②県内での活用割合は向上しているが、地域間で差が見られる。
- ③遠隔地とつながる機会を、学校だけで創出するのは難しい。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③生徒の英語力向上のための授業改善

R5と比較すると、R6年度は3.9ポイント増加したものの、R9までの目標は60%であることから、生徒の英語力向上をめざし、言語活動の充実や、生徒の理解に応じた英語を用い授業を行う等の授業改善に係る取組を継続して推進していく。

①②③言語活動を充実させるためのICT活用の推進

R6 オンライン国際交流を継続するとともに、ICTを効果的に活用し言語活動を通じた指導を充実させ、生徒の英語力向上につなげるため以下5つの取組を実施する。

- ・県がハブ的役割を担い、継続的にオンライン交流を体験できる機会を提供していくことで取組等の普及を図る。
- ・R5の小学校での研究結果をふまえ、公立中学校においてもICT活用研究推進校を設定し、言語活動におけるAIアプリや録音・録画等、持続的で効果的な活用の方法について検証する。
- ・採択教科書別デジタル教科書活用研修を行うことで、新しいデジタル教科書の機能について学ぶことができる環境を整える。
- ・三重の魅力をも1枚紙に英語でまとめる「ワン・ペーパー・コンテスト」を実施し、中学生が郷土について英語で発信できる力を育成する。
- ・英語通信、県教委HP、SNS等で、県内の英語教育の成果や課題、好事例等を発信するとともに、英語教育担当指導主事会を年間4回程度実施し、市町の情報及び先進的な取組内容等の共有、国及び県の動向の周知等を行い、共通認識をもって課題解決を図る。

(参考URL：生徒の英語力向上推進事業概要)

<https://drive.google.com/file/d/1YnwOXCSOemqjPG4pKpN9z8f5FHs1BRV/view?usp=sharing>

令和 7 年度 三重県 英語教育改善プラン

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成 ～言語活動の充実のためのICT活用/学習評価の改善から生徒の発信力育成へ～

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 48.7%、B1以上 19.2 % ⇒R7 : A2以上 54%、B1以上 20%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①「CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合」
(A2以上/B1以上 R5:46.4%/12.7 % ⇒R6:48.7%/19.2%)
- ②授業中、50%以上の時間、生徒が英語による言語活動を行っている割合
(R5:45.2%⇒R6:55.8%)
- ③CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合
(R5:80.1%⇒R6:86.9%)
- ①「スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合」について課題が見られる。
(R5:61.5%⇒R6:34.9%)
- ②「英語担当教員の授業における英語使用状況」は引き続き改善の余地がある。
(R5:36.9%⇒R6:45.5%)

2. 要因分析

- ①②「指導と評価の一体化」に係る研修での各校による実践の共有や、パフォーマンステストの事例の共有により、言語活動の充実につながる授業改善が進んだためだと考えられる。
- ③実施した研修の結果及び新規採用者試験における有資格者の優遇処置等が要因と考えられる。
- ①パフォーマンステストの必要性について教員の理解は進んでいるものの、単元目標に準拠した指導と評価になっていないことや、各科目の指導内容への理解がまだ十分ではないことが要因として考えられる。
- ②英語を使用した授業の好事例について、生徒の英語力に対応した多様な実践事例を集約しきれておらず、学校が十分に活用できるものになっていないことが要因として考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①**生徒の言語活動の充実と英語力向上のための取組**
 - ・コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にした授業づくりについて、演習形式の研修を通して学び、生徒の言語活動の充実につなげる。
 - ・4県合同で行う自治体連携アライアンスの研修において、講師の講義や、他県の教員と実践例の交流を行う機会を設けることにより、言語活動の充実に資するICT活用や、パフォーマンステストの実施及び質の向上につなげる。
 - ・AI等を活用して、各生徒のレベルやニーズに応じた授業モデルの構築を図るとともに、AI英語活用リーダー同士が情報交換を行える研修の機会を設ける。(令和6年度補正予算「AIの活用による英語教育強化事業」)
 - ・グローバルに活躍することが期待される層の更なる拡充に向けて、英語セミナーを実施し、高校生が英語によるディベートやディスカッションを通して実践的な英語運用力を高める機会とする。また、教員が、発信力育成について研修を深める機会とする。
- ②**英語担当教員の授業における英語使用の推進**
生徒の理解の程度に応じた英語による授業実践について、県内の実態に即した研修を実施するとともに、特色の異なる学校による好事例を、県のグループウェア等を通して発信する。

(参考URL : 生徒の英語力向上推進事業概要)
<https://drive.google.com/file/d/1YnwOXCSOemqjPG4pKPn9z8f5FHs1BRV/view?usp=sharing>

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

三重県教育委員会

※令和5年度より算出方法等の変更有り		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	46.4	50	48.7	54		57		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	12.7	20	19.2	20		20		20	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	※-	45.2	60	55.8	70		80		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	55	61.5	72.5	34.9	75		77.5		80	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	60.9	65	70		75		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80	80.1	80	86.9	80		80		80	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	※-	36.9	60	45.5	70		80		90	

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	47.7	50	51.6	54		57		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90	64.9	75	77.0 (県独自調査)	80		85		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	79.4	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	76.4	100	100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	81.8	100	100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	44	50	44.5	54		57		60	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	54.3	100	71.6 (県独自調査)	100		100		100	

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	65.3	82	84		86		88	
		達成状況の把握(%)	100	83.8	100	100		100		100	